

岡田・鍋沼



龍田山福寿院（曹洞宗）



福寿院は永平寺と
総持寺が両本山であ
る。仙台市新寺4丁目
にある松音寺の第九
世が岡田の要害の地
に福寿院と称する禪
寺を開創したのが最
初で、明治3年

(1871) 6月、放火により建物、什物一切を焼失した。その後、十二世に旧仙台城下の土族屋敷を求め、すべての檀家の労働奉仕によって再建された。また、同時に地域の児童を集めて、読み書きを教え学ばせる寺子屋を開き、これが今の岡田小学校の創設となった。その後、十二世は他寺に転任し、住職のいない無住寺となり、旅人の宿となり、また寺守りを頼むためにも家のない人を住ませたりしてきた。昭和3年頃（1928）陽雲寺（原町）より十五世、清野良道和尚が定住、現十六世清野孝正和尚まで、350有余年の由来を持っている。

現在の建物は、昭和45年（1970）、檀家の寄進により庫裏、昭和49年に本堂を改築したものである。

新浜



▲田園の中の居久根

新浜は若林区と接しており、豊かな田園地帯が広がり、また岡田で最も海に近いところである。家々には屋敷林の居久根^{いぐね}が廻されていた。

数年前まで川に鮒、鯉などの魚や野鳥など自然が今より多かったように思う。地名は「しんはま」と呼ぶが、地元の人「しんぱま」とも呼んでいるらしい。

中世初期頃より、人々が住み着いたところといわれている。「平山・村主・瀬戸」の姓が多いところでもある。特に「平山」姓は平家の滅亡後、その一族が都落ちしてこの土地に定着したといわれている。青葉区定義如来西芳寺（定義さん）とも関係があるそうです。

海見山照徳寺（浄土宗）

天正19年(1591) 3月19日の開山であり、本山は若林区新寺の成覚寺^{じょがくじ}の末寺である。住職は三十五世中澤圓浄和尚が、平成13年9月に

防風林

海岸に防風・砂防林があるのは、昭和17年の春に私の父（平山源六）などが先頭にたち県事業として赤松の植林を行なったことによる。昭和25年頃まで私も、その仕事に加わっていたが海から



▲防風林除幕式

らの強風とたたかいながらの作業にだいぶ苦勞した。貞山堀を利用し舟で山土を運び松の根付きをよくするために押さえたり、藁を敷いたり、また防風囲を作ったり失敗を繰り返しながら昭和28年12月に除幕式を迎えることができた。松林の間伐した木や落ち葉は地区の人が風呂の燃料として必要なものだった。今も防風林の中に野鳥が生息したり、アマタケ・キンタケ・ハツタケなどきのこが採れたり、自然に恵まれているね。

海水の浸入や海風で農作物が育たず、湿地帯であった水田が防風林によって豊かな土地に変わった。

（平山孝さんの話）



▲防風林生育不良